

生物多様性世界動向 愛知ターゲットの振り返り 次の10年のヒント

(公財)日本自然保護協会 経営企画部副部長
(国際自然保護連合日本委員会(IUCN-J) 事務局長)

道家 哲平

2019年7月11日

ご質問事項:

- 生物多様性に関する、国や世界の現状や動向。(愛知目標の2020年に向けた動き、達成できたorできなかった目標、など)
- 2021年以降に生物多様性の目標の中で話題になりそうなテーマ
- その他、自治体向けの生物多様性に関する話題の中で、好評だったものなど

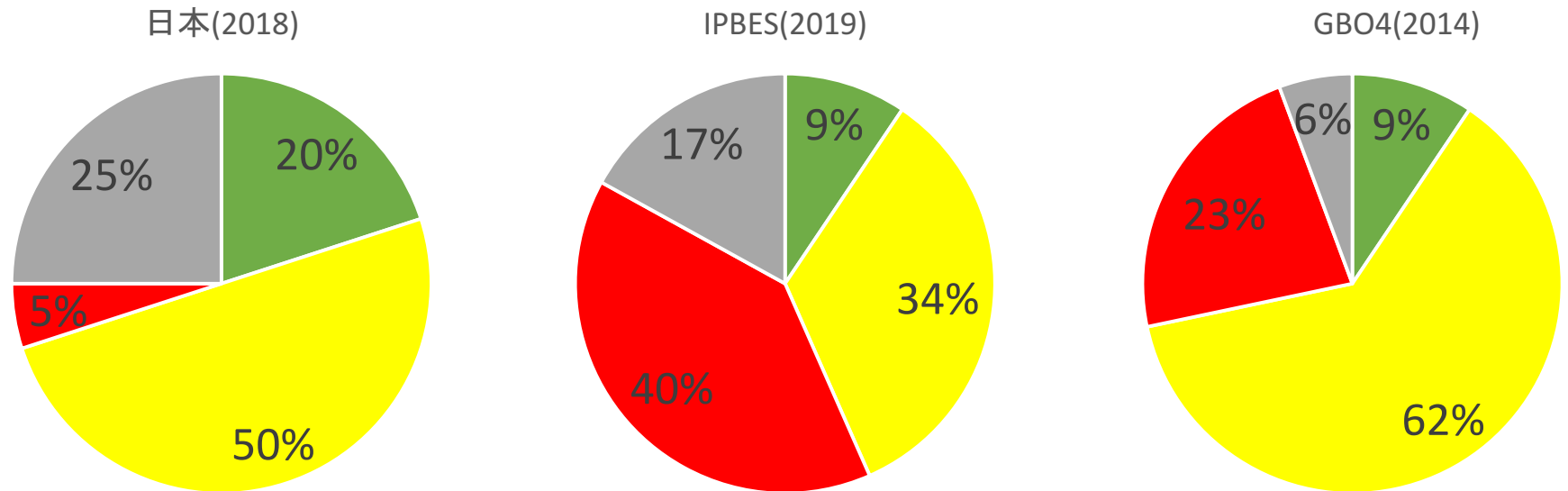
ご質問事項:

- 生物多様性に関する、国や世界の現状や動向。(愛知目標の2020年に向けた動き、達成できたorできなかった目標、など)
- 2021年以降に生物多様性の目標の中で話題になりそうなテーマ
- その他、自治体向けの生物多様性に関する話題の中で、好評だったものなど

| | | 日本の評価(2018) | IPBES(2019) | GB04(2014) |
|-------------|------------------|------------------|-------------|------------|
| 戦略目標A | 目標1 | 価値の普及 | 2 | 2 |
| | | 対策の普及 | 2 | 2 |
| | 目標2 | 計画への組込 | 2 | 2 |
| | | 会計への組込 報告への組込 | 2 | 1 |
| 目標3 | 負の誘導措置の除去 | 0 | 1 | |
| | 正の誘導措置の導入 | 0 | 1 | |
| 目標4 | 持続可能な消費 | 0 | 1 | |
| | 生態学的制限の中での活用 | 0 | 1 | |
| 戦略目標B | 目標5 | 損失をゼロに | 2 | 1 |
| | | 劣化や断片化をゼロに | 2 | 1 |
| | 目標6 | 持続可能な収穫 | 0 | 1 |
| | | 回復計画の導入 | 0 | 0 |
| | 目標7 | 漁業の改善 | 2 | 1 |
| | | 農業の持続可能性 | 2 | 1 |
| | | 養殖業の持続可能性 | 2 | 1 |
| | 目標8 | 林業の持続可能性 | 2 | 2 |
| | | 汚染の防止 | 1 | 1 |
| | 目標9 | 栄養塩流入の抑制 | 1 | 1 |
| 優先度決定 | | 2 | 3 | |
| 侵入経路特定・優先付け | | 2 | 0 | |
| 定着した種の駆除 | | 2 | 1 | |
| 目標10 | 侵入経路の管理 | 2 | 1 | |
| | サンゴ礁への圧力最小化 | 2 | 1 | |
| | その他の脆弱な生態系への対策 | 2 | 1 | |
| 戦略目標C | 目標11 | 海洋保護区面積 | 2 | 3 |
| | | 陸上保護区面積 | 2 | 3 |
| | | 重要生息地の保護 | 2 | 2 |
| | | 生態学的代表制 | 2 | 2 |
| | | 効果的な管理 | 2 | 2 |
| | | 景観への統合 | 2 | 2 |
| | 目標12 | 絶滅防止 | 2 | 1 |
| | | 危機ステータスの改善 | 2 | 1 |
| | 目標13 | 栽培品種の多様性保持 | 0 | 2 |
| | | 家畜品種の多様性保持 | 0 | 2 |
| 野生原産種の多様性保持 | | 0 | 2 | |
| 価値ある種の多様性保持 | | 0 | 0 | |
| 戦略目標D | 目標14 | 遺伝的かく乱の最小化 | 2 | 2 |
| | | 生態系サービスの回復 | 2 | 1 |
| | 目標15 | 先住民等への配慮 | 2 | 0 |
| | | 生態系レジリエンスの強化 | 2 | 0 |
| 目標16 | 15%の復元 | 3 | 0 | |
| | 名古屋議定書の発効 | 3 | 3 | |
| 戦略目標E | 目標17 | 名古屋議定書の実施 | 3 | 2 |
| | | 国家戦略の策定 | 3 | 3 |
| | 目標18 | 国家戦略の法的位置づけ | 3 | 2 |
| | | 国家戦略の実施 | 3 | 2 |
| | 目標19 | 伝統的知識の尊重 | 3 | 2 |
| | | 伝統的知識の統合 | 3 | 0 |
| 目標20 | 先住民共同体とのパートナーシップ | 3 | 0 | |

結論： 正式評価は、2020 年5月発表予定

- 2014年の評価(見込み)として、地球規模生物多様性概況第4版(国レビュー)(右)
- 2019年IPBESグローバルアセスメント(科学者レビュー)(中段)
- 日本政府がCBD事務局に提出した国内実施状況の報告(第6次国別報告書)(日本政府レビュー)(左)
- 緑=達成、黄色=進展あったが達成には不十分、赤=進展なし、後退灰色=目標設定なし/評価不能
- 評価軸や評価者等が異なるため、単純比較できないことに注意



- 2014年の評価/見込み(右)より、2019年の評価では、事態は悪化。日本の自己評価は甘い？
- 悪化/進展なしとされたのは、戦略目標AとB＝生物多様性損失の根本要因や直接危機要因への対策ができていない。
- 対策に関するものの多くが、「進展はあったが不十分」

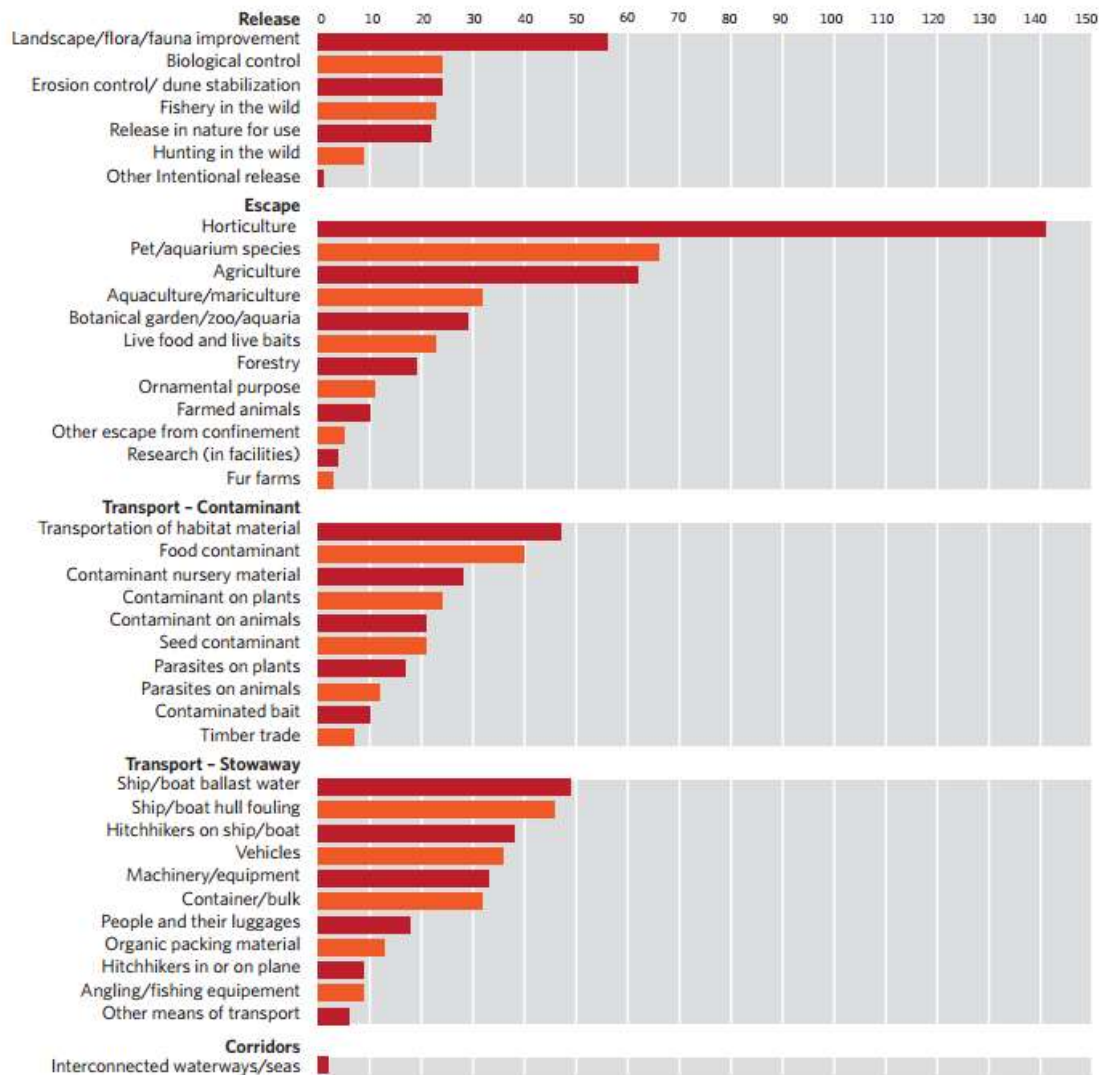


Figure 9.2. Frequencies of introduction pathways of known cases of introduction of over 500 invasive alien species profiled in the Global Invasive Species Database (GISD).¹⁴²

外来種（愛知目標9）

COP10以降、外来種侵入ルートの世界基準（COP12決定）が定義され、外来侵入種のデータベースが発展。

生物分類群ごとの主要進入経路が量的に把握。

→侵入経路を想定した、優先的な対策などができるようになった。

経済上の国益の確保・増進

経済連携協定 (EPA) / 自由貿易協定 (FTA)

令和元年6月27日

[英語版 \(English\)](#)

[Twitter](#)

[いいね!](#) 16

[メール](#)



日本のEPA・FTAの現状
(2019年2月現在)

● 完結済・署名済 ▶ 18

シンガポール、メキシコ、マレーシア、チリ、タイ、インドネシア、ブルネイ、ASEAN全体、フィリピン、スイス、ベトナム、インド、パルー、オーストラリア、モンゴル、TPP12 (署名済)、TPP11、日EU・EPA

● 交渉妥結/実質合意 ▶ 1

日ASEAN・EPAの投資サービス交渉 (実質合意)

● 交渉中 ▶ 4

コロンビア (交渉中)、日中韓 (交渉中)、RCEP (交渉中)、トルコ (交渉中)

○ その他 (交渉延期中または中断中)

GCC、韓国、カナダ

外務省ウェブサイト <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/fta/>

- 同時に、経済連携協定/自由貿易協定が加速
- 侵入経路が分かっても、モノの移動の多様化/加速/拡大によって、侵入リスクは増大。
- 監視/対策のための人/予算への支援が輸入量に比例して上がるわけでない。
- ヒアリののように、非意図的導入を防ぐには、議定書が必要？

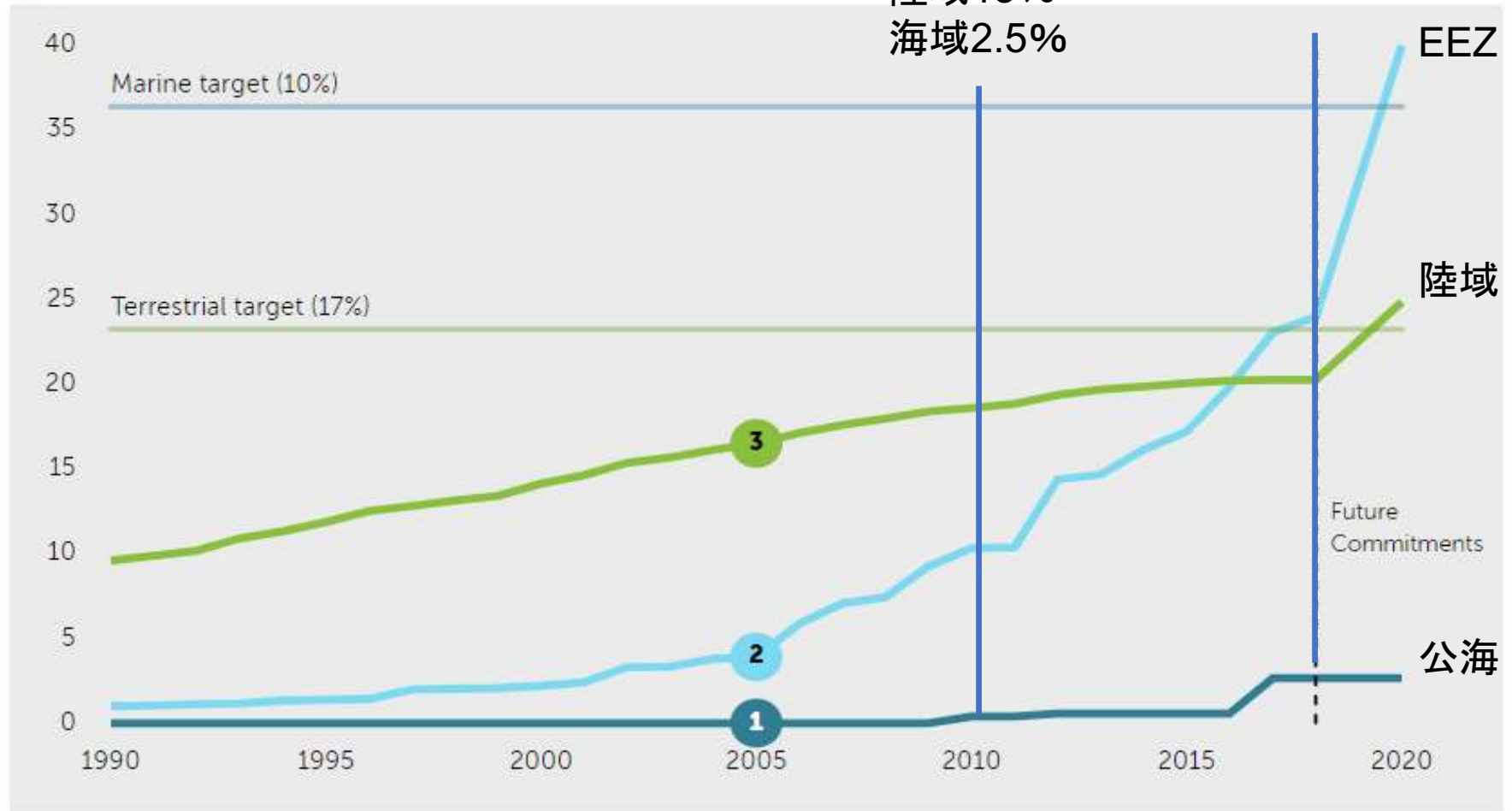
保護地域は増えた

Protected Planet Report 2018

2018年
陸域14.7%
海域6.4%

2010年
陸域13%
海域2.5%

Area
(Million km²)



Protected planet report 2018 UNEP-WCMC

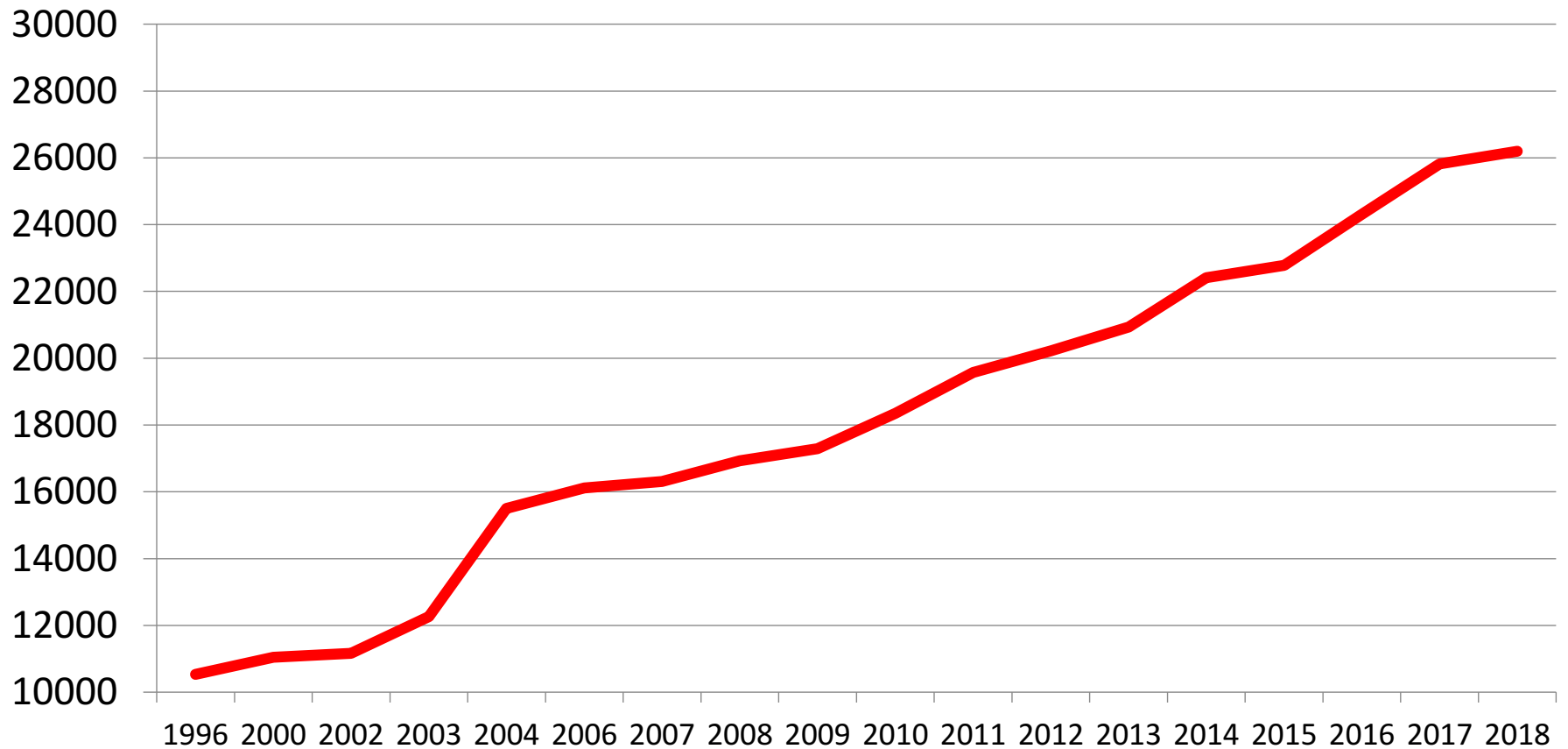
<https://livereport.protectedplanet.net/>



Project 12

世界の絶滅危惧種数も増えている

IUCN Red List of Threatened Species 1996-2018 より

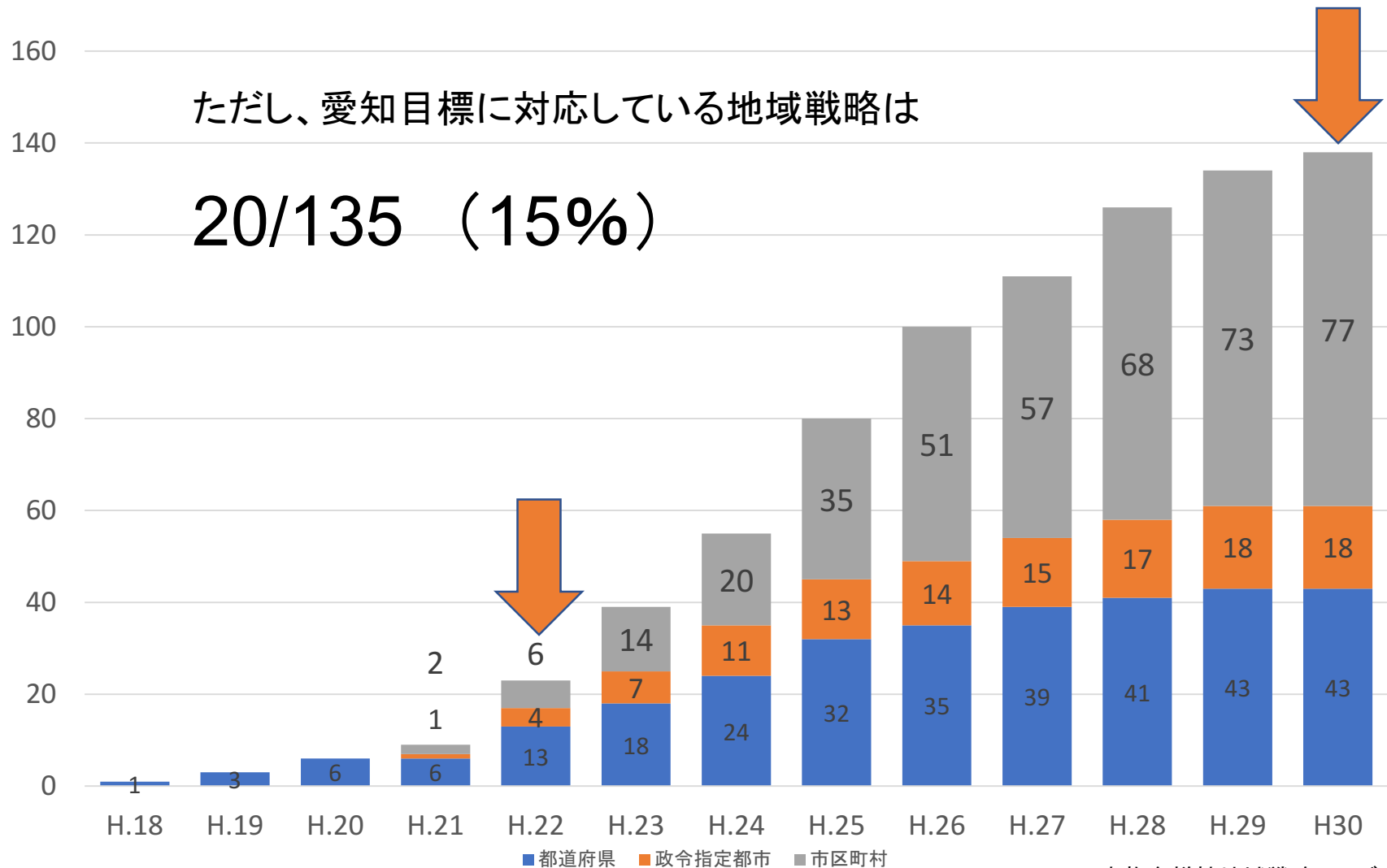


生物多様性国家戦略 (NBSAP)

- 2010年ー170カ国がNBSAPを作成。改定していたのは19カ国のみ (採択から17年。加盟国の9.7%が見直し)
- 2018年ー190カ国がNBSAP作成。愛知ターゲットにあわせたNBSAPを、140カ国が提出
- 愛知ターゲット採択から8年で70%が見直し

生物多様性条約ウェブサイトを元にIUCN-Jまとめ(2018年11月しらべ)

生物多様性地域戦略 日本の策定状況



生物多様性地域戦略のレビュー

<https://www.env.go.jp/nature/biodic/lbsap/review.html>

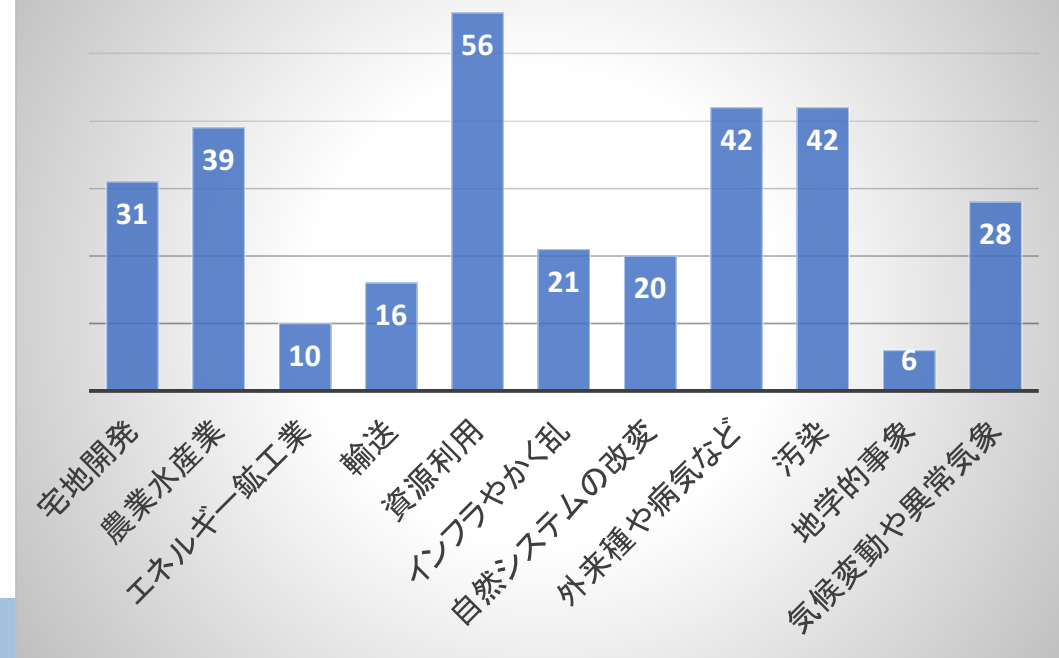
ご質問事項:

- 生物多様性に関する、国や世界の現状や動向。(愛知目標の2020年に向けた動き、達成できたorできなかった目標、など)
- 2021年以降に生物多様性の目標の中で話題になりそうなテーマ
- その他、自治体向けの生物多様性に関する話題の中で、好評だったものなど

1つ目のキーワード：自然保護カルテ 「限られた資源を、より効果的な保全へ」

- 保護地域一国ごとに強化すべき領域を提案
(面積/景観/連続性・重要性(KBA))
- 絶滅危惧種一種ごとの保全戦略から、種の危機要因の対策戦略の提案
- 外来種一種ごとの対策から、侵入経路ベースの侵入防止対策へ
- “普及啓発”から“行動変容”意識したコミュニケーション(保全心理学)

* 日本に生息する絶滅危惧の鳥類66種の危機要因



<https://www.iucnredlist.org/> を使って作図(2019-1ver)

The roadfree areas map (<http://www.roadfree.org/>)

IUCN発表レポート

普及啓発→態度変容へ

自然を守る行動は、自然体験から生まれる



“Connecting with Nature to Care for Ourselves and the Earth”

<http://natureforall.global/s/Connecting-with-Nature-ehpw.pdf>

- 幼少期のポジティブで意義のある自然体験と、身近なロールモデルの存在が、成人になったときの自然環境に配慮した行動をとるかどうかの重要な要素である(=知識は重要だけど、それだけでは不十分)
- 場の感覚(Sense of Place)・自然とのつながり(Connectedness)が、自然を守ったり、破壊されることへの反対行動につながりやすい
- ほぼあらゆる社会で、人と自然のつながりが失われている
- これらのコミュニケーションに、認知科学行動科学の知見などをもっと活用すべき

2つ目のキーワード: 企業と生物多様性 「大きな資源を、保全にも向ける」

課題出し

議題化

情報/経験の
共有

第1次産業で
の具体的な
提案

第2次産業(
中途半端)

長期の計画的な
議題化

- 2006 COP8@クリチバ 決議なし。企業とCBD事務局長の朝食会が企画
- 2008 COP9@ボン 初決議(DEC26)。* 2008年にJBIB設立
- 2010 COP10「企業と生物多様性グローバルプラットフォーム設立」。以降、企業決定続く。* 民間参画パートナーシップ設立
- 2014 COP12では、COP13のメインテーマを主流化-農林水産業・観光業とすることが決定。
- 2016 COP13では、農林水産業・観光業の主流化決定。COP14で、第2次産業での主流化のテーマを決定。また、「推奨される報告枠組み」を決定。
- 2018 COP14では、第2次産業での主流化決定と同時に、主流化の長期戦略策定とそのための専門助言機関設立を決定
- 同COP14では、企業も含めて、生物多様性コミットメントの提案を呼びかけ。

動機は色々だが、政策レベルで、企業が生物多様性に取り組むような圧力が10年かけて充実

- やるのが、基準です(ISO14001(2015-))、資金調達に差し支えます(E SG投資(2016-))、投資家は財務指標以外も見ています(GRI304(2016))。
- 流行です・アピールできます(SDGs(2015))。
- 国や業界が奨励しています(経団連生物多様性宣言(2018)、業界指針(電機電子(2014)、製紙(2015)、建設業(2016)))。
- 国が支援しています(民間参画ガイド(2018))
- やってないとリスクになります(調達(枯渇、規制、価格)、汚染リスク、評判リスク)(世界経済フォーラム(2016))。
- やっていると将来のビジネスチャンス(継続性、市場確保、技術革新、ブランド確立)がつかめます。
- 最強の一言＝“消費者が、わが社を、選びます”(までは、今一步?)

実務レベル対象のツールも、完璧ではないかもしれないが充実。

- 未知の領域で仕事をするための指針＝IUCNツール(2018)や、自然資本会計(2016)、生物多様性民間参画ガイドライン(2018)等
- 具体的な一歩を踏み出すためのきっかけ＝『Let's Try Biodiversity』(2018)
- 間違いやすいことリスト（未知の分野のため、批判されることが怖い）＝『生きもの目線で活動チェック』(2019)
- 何をどこまですればよい？（優、良、可、不可の分かれ目は、曖昧かもしれない）

3つ目のキーワード：地方/民間の力 「民間の参画/協力を引き出す仕組み」

- COP14で検討が始まった仕組み：生物多様性コミットメント＝NDC-like mechanism
- 締約国、その他の国に対して、単独または共同で、自発ベースで、生物多様性条約、愛知ターゲットそして、ポスト2020枠組みに貢献する、生物多様性コミットメント(Biodiversity Commitment)の開発を考慮することを求める決定。
- 先住民地域共同体、あらゆる団体、利害関係者に対して、COP15の前に、ポスト2020枠組みに貢献し、かつ、Sharm El-Sheikh to Beijing Action Agenda for Nature and Peopleへの貢献として、生物多様性コミットメントの開発を考慮するようを求める決定。

(UNEP/CBD/COP14/34)

行動を宣言して 愛知ターゲット達成をめざす仕組み

学ぶ



宣言する



行動する



にじゅうまる
プロジェクト

守られてるから、
守りたい。

この星すべての生命。

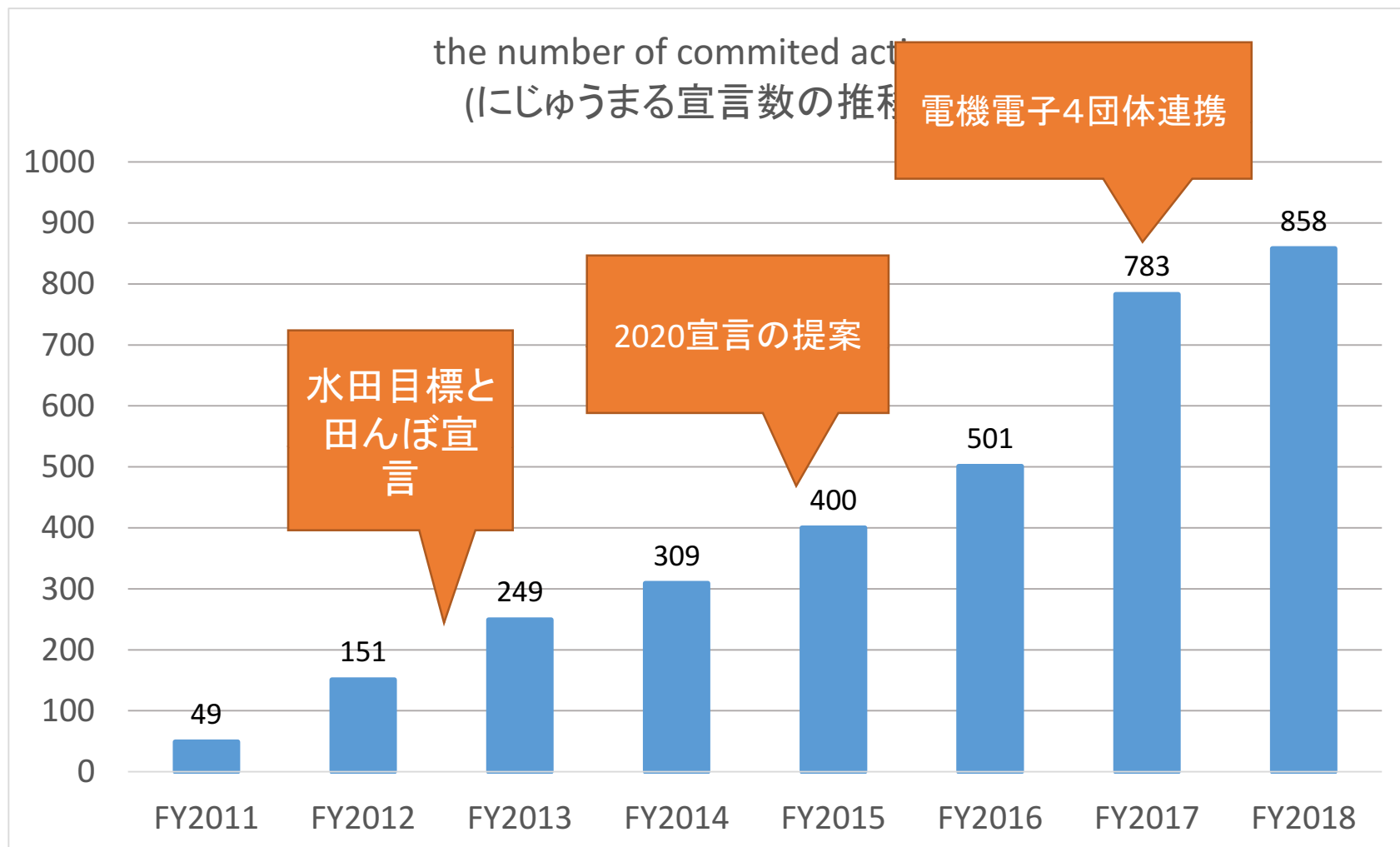
全国各地

693 団体が

966 のアクション宣言

2019年5月21日現在

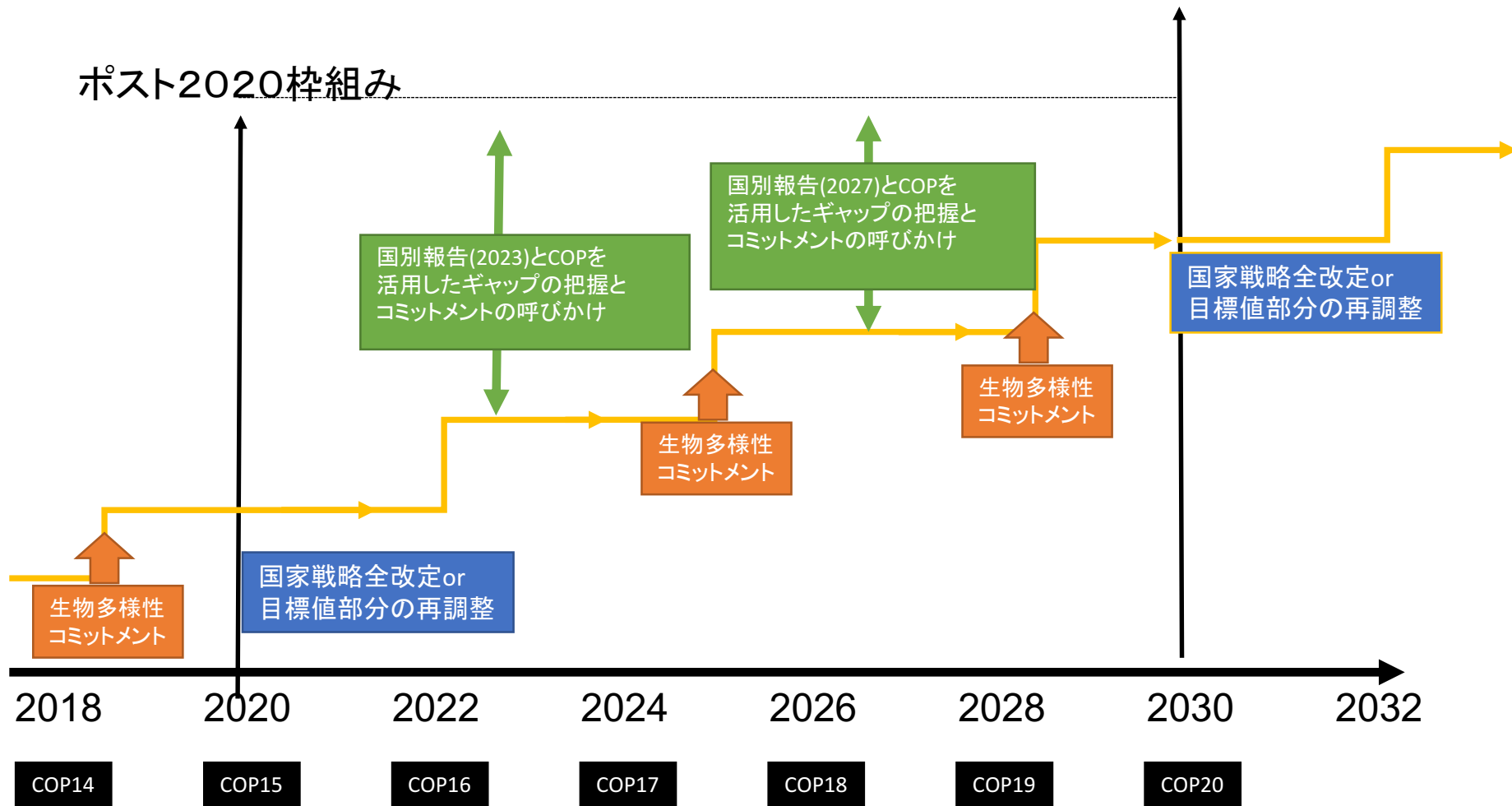
にじゅうまる宣言数の推移 2011年度-2018年度(2019年1月まで)



国家戦略+コミットメント+国別報告書 (NBSAP+VC+NR)

人と自然の共生
に向けた第3フェーズ
(2030-2040)

ポスト2020枠組み



第4のキーワード：SDGsとTransformation（変革）

- 「国連持続可能な開発目標（SDGs）」は、生物多様性のさらに上にかかる大枠の国連目標
- ポスト愛知目標（2021年以降の生物多様性）もSDGs達成のための仕組みとして位置づけられる。
- SDGs達成のためには、2つが必要＝自然は基盤であり、危機的状況である。通常の見方からおきる「変化」では不十分で、「変革」が必要。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



人類の誰もが豊かで安全な暮らしを将来に渡って継続的に営むために・・・

JAPAN

OECD Countries

OVERALL PERFORMANCE

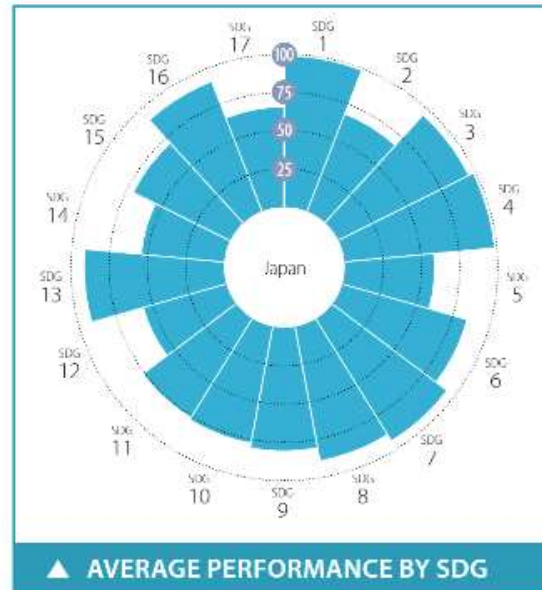
Index score



Regional average score



SDG Global rank 15 (OF 162)



SPILOVER INDEX

100 (best) to 0 (worst)



CURRENT ASSESSMENT – SDG DASHBOARD



■ Major challenges ■ Significant challenges ■ Challenges remain ■ SDG achieved ■ Information unavailable

民間研究機関による評価

昨年総合11位から15位にランクダウン

- ジェンダー
 - 消費と生産
 - 気候変動
 - 海の生物多様性
 - パートナーシップ
- に赤信号

2019 SDG Index and Dashboards
<http://www.sdgindex.org>



SDGs Wedding Cake

原図 (Graphics by Jerker Lokrantz/Azote) の考案者: Johan Rockström & Pavan Sukhdev に許諾を得て MS&AD インターリスク総研(株) が加筆 (不許複製・禁無断転載)

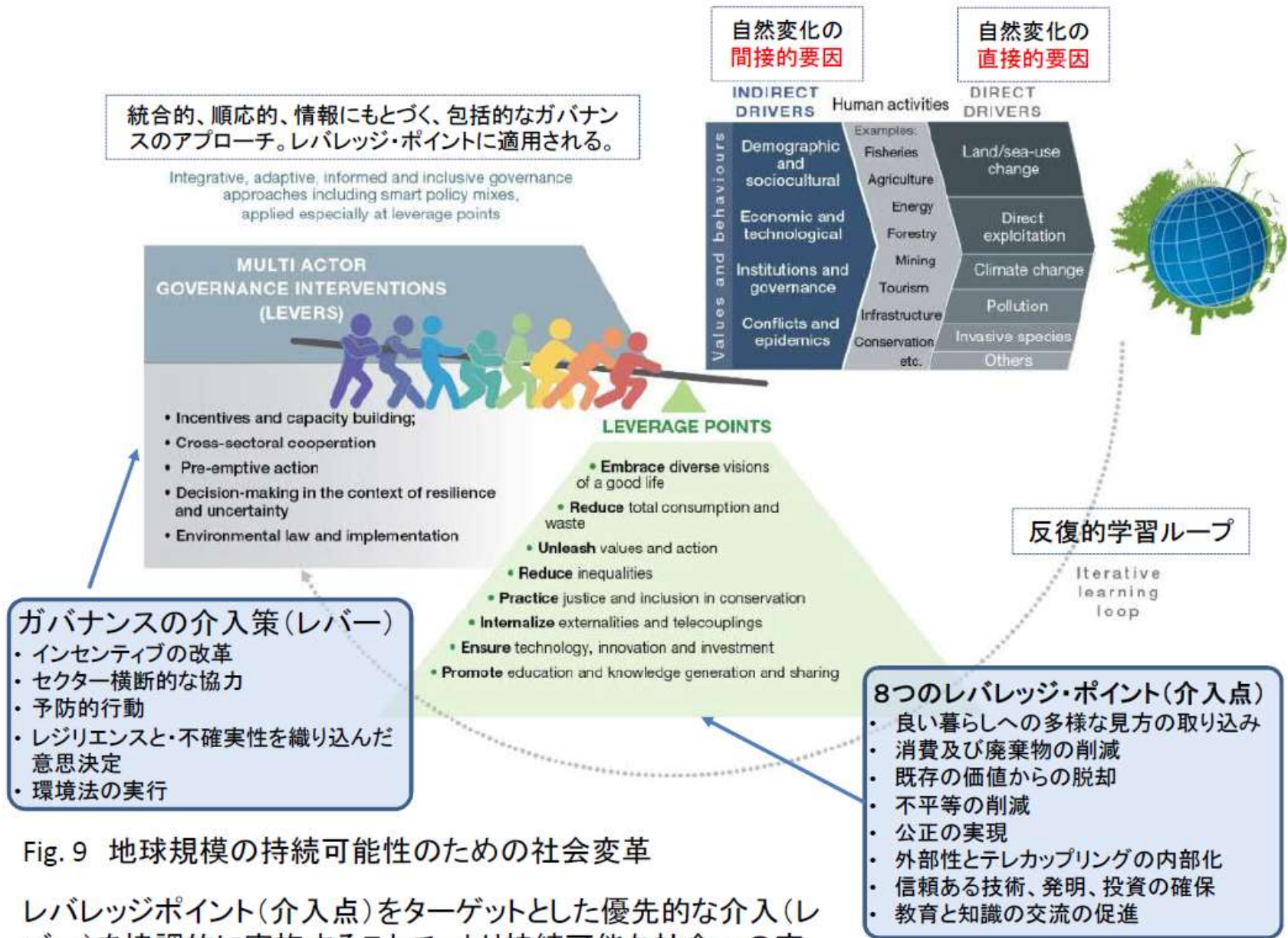


Fig. 9 地球規模の持続可能性のための社会変革

レバレッジポイント(介入点)をターゲットとした優先的な介入(レバー)を協調的に実施することで、より持続可能な社会への変革が可能になるであろう



日本自然保護協会のアプローチ ～自然観察指導員40周年記念キックオフイベント～



全国の自然観察指導員の皆さんと共に
＜分科会テーマ＞

- ネイチャア・フィーリング自然観察会
- 介護福祉現場での自然観察
- Myフィールドに自然保護問題がやってきた
- あらゆる子どもに自然体験を
- 地域の指導員ネットワークの活性
- 企業と連携した自然観察最前線



ご質問事項:

- 生物多様性に関する、国や世界の現状や動向。
(愛知目標の2020年に向けた動き、達成できたorできなかった目標、など)
- 2021年以降に生物多様性の目標の中で話題になりそうなテーマ
- その他、自治体向けの生物多様性に関する話題の中で、好評だったものなど

地域戦略で参考となる事例はありますか？

- カナダーオンタリオ州 健康をキーワードに地域戦略とアクションプランを構築。健康というキーワードでステークホルダーが広がる
- いすみ市：地域戦略/事業を通じて、魚市場が活性化した。
- 豊岡市：小学校区という単位で小さな自然再生を実施。郷土愛と自然を結びつけるプログラムもユニーク
- 綾町：“町”（人口9000人）という単位の地域戦略。ビジュアル豊富・全町民アンケートなども実施。NACS-Jフルサポート。
- 愛知県：県内を、流域も考慮しながら9つの地域ブロックに分け、地域協議会を設立。愛知ミティゲーション方式などの工夫も
- 長野と兵庫県：企業と自然保護活動のマッチングの仕組み
- 徳島県：「人材育成事業」が高評価。県戦略を支える大学・NGO連携体（生物多様性とくしま会議）の存在がユニーク

10年を振り返り、 UNDBせいかりレーへの参加を！

「国連生物多様性の10年せいかりレー」

- 2010年からつないできた10年間（成果）と
- 2030年につなげたい希望と課題（聖火）を、
- 日本全国で考えるイベントの開催呼びかけ
- スタートは、愛知県・名古屋
- 全国を巡り、COP15@中国に持って行き、COP15の成果（聖火）を再び日本に持ち帰る
- リレー団体現在募集中（詳しくは、環境省へ）

COP10開催会場・名古屋国際会議場にて
にじゅうまるプロジェクトの総まとめ
(にじゅうまるパートナー会合)を
2020年1月12日、13日開催予定
ぜひ、ご参加を！

1月11日・12日の
「国連生物多様性の10年 成果リレーキックオフイベント」
と連動企画





日本自然
保護協会

The Nature Conservation
Society of Japan

自然のちからで、明日をひらく。

私たちは、
人と自然がともに生き、赤ちゃんからお年寄りまでが
美しく豊かな自然に囲まれ、笑顔で生活できる社会を
つくることを目指して活動しています。